

121112 カジカガエル

里山の「秋」を味わうために、河内長野市の**旗雄岳**の山麓部を歩いてみました。

歩道沿いのサクラの木に、何かいないかと観察しながら歩いていると...

サクラの老木の、枝分かれしているところに小さな穴があったのですが、その中から何と**カエル**が顔を出していたのです！

2m くらいの高さのところでしたので、腕を伸ばしてデジカメ撮影したものをモニター画面でチェックしてみたら...

「**カジカガエル**」でした！！

“そろそろ寒くなってきたので、冬眠の準備でもしようかな...”と、秋の空を眺めながら思索しているようにも見えました。

「**カジカガエル**」と聞くと、「フィフィフィフィフィ」と聞こえる、まるで笛の音が野鳥のさえずりのような**美声**を思い浮かべる方も多いと思います。

その“**清流の歌姫**”がどうして木の上などにいるのでしょうか？

実はこのカエル、「モリアオガエル」や「シュレーゲルアオガエル」と同じく、「**アオガエル科**」に分類されており、繁殖期以外は**森**の中で暮らしているのです。

美声の持ち主である反面、体色は超地味で、青くなることもありませんが...

恐らくこの体色は、河原の石に**擬態**しているのでしょう、鳴いていたり、動いていたりしないと、その姿を見つけることがすこぶる難しいのです。

なお、美声を聞くことができるのは、繁殖期の4～8月頃だけで、場所は溪流の中です。

雄が、水面から出た岩の上に縄張りを確保し、盛んに鳴いて雌を呼びます。

そして、卵は水中の石の下に産むようです。

さて、流れのある溪流の中で、彼らが流されないのは何故でしょうか？

実は、成体には足に吸盤が、オタマジャクシは口が吸盤状に発達している、というように、彼らの体は見事に急な流れにも適応しているのです。

また、これから迎える冬の間、彼らはどこで冬眠するのでしょうか？

図鑑には「**岸辺の砂の中や石の下**」と書かれていますので、来春の繁殖に備えて、河原へと移動していくのでしょうかね。

残念なことに26の府県がレッドデータブックに掲載している、という希少な種になってしまいました...





